

文化観光の取組みの考え方

文化観光推進支援コーチ

文化観光の取組みの考え方

よくいただくお声

文化観光の趣旨や目的、制度や補助事業は理解したが・・・

取組みが広範囲であるため、自分たちの文化観光をどのように考えれば良いかわからない

担当者の単独では判断ができない

管轄部署との連携や相談のハードルが高い

担当者が対応する事業が多く、手が足りず検討が進まない

3～5年先の長期的な検討が必要



文化観光の取組みの考え方

お願いしたいこと

一人で考えず、文化観光と一緒に取組む仲間に声をかけて、
どんなことができるかワクワクしながら取り組みを考えてほしい



文化観光の取組みの考え方

本日解説するワークの目的

みなさんの地域や拠点ならではの文化観光の取組みを発想し、
今後のご検討を前に進めていただきたい



<活用方法>

- ・ 仲間に声をかけるための素案や青写真として
- ・ 組織でのこれからの検討のたたき台として
- ・ 連携する事業者や取組みの主体者となる方への説明資料として

文化観光の取組みの考え方

文化観光の取組みを考える4つのステップ

① 目指す姿を描く

— どんな人がどんな場所でどんなことで愉しんでもらう*かを発想する

*「地域の文化理解」や「文化体験」で愉しむということ

② 目指す姿へのギャップを把握する

— 現状の拠点や地域の観光者の受け入れ態勢、取組みの不足点や課題を洗い出す

③ ギャップを埋める取組みを考える

— 不足点や課題の打ち手となる取組みを考える

④ 一緒に取り組む連携事業者を考える

— 打ち手を共に取組む事業者を考える

文化観光の取組みの考え方

① 目指す姿を描く

場所や対象を特定する

- その地域を訪ねる甲斐がある！とお勧めしたい、有形・無形の文化資源や場があるか

伝える価値と提供する文化観光体験を考える

- そこでどんな価値が伝えられるか
 - ✓ どんな人がどんな場所でどんなことで愉しんでもらうか小説のように描いてみる
 - ✓ 来訪者の行動変容を想像して博物館や美術館の拠点と地域で文化資源の何を価値として伝え、何を来訪者に持ち帰ってもらうのか。そのメカニズムを考える

文化観光の取組みの考え方

①目指す姿を描く

(例) MOA美術館

「日本の芸術文化を創り、守り、育てるプラットフォーム」

熱海に来る20-30代の若い方が、
熱海の海を見下ろす丘の上の景観や美しい庭園や華やかな円形ホールなどの写真が映える景色を目指して訪れる。

建築、自然が調和する空間の中で、静かに美と向き合う。
展示室では国宝をはじめとするコレクションを見て、日本の美意識を発見する。
庭園を散策しながら、アートに触れる喜びが日常へとつながり、
カフェで一息つく頃には、自らも何かを創造・発信したくなったり、創作活動を応援したくなるようなインスピレーションを得ている。

— アートリテラシーを高める美術館となる

文化観光の取組みの考え方

①目指す姿を描く

(例) 福島県立博物館

「会津のSAMURAI文化エリア、若松城下の商工文化エリア、奥会津エリアをつなぐ」

若松城を訪れた観光客は城跡からつながる道の、雪国の風土を感じる案内板を見て、会津若松の歴史に興味を持ち博物館へ訪れる。

館内では、会津の侍文化や商工文化、工芸の技が息づく展示に触れ、併設の雪国ものづくり食堂「つきない」で、会津の工芸品である漆器に盛られた郷土の味を味わう。

「つきない」で販売される職人がつくる器やふきんを手に取り、旅の記憶を持ち帰る。さらに興味を持った方が学芸員ツアーや毎年二回開催されるマルシェに参加し、より深い文化体験や地域とのつながりに関わっていく。

—地域と人がつながり、ものづくり文化を体感する。ひらかれたミュージアム

文化観光の取組みの考え方

①目指す姿を描く

(例) 徳川美術館

「日本の美をつなぎ、豊かな明日をつくる」

刀剣に興味を持つ方が展示室で美しい刀剣を前に、若者から年配層までが一緒に息をのむ。売店では刀剣に興味を持つ若い方が求める限定グッズが並び、深い文化の価値を持ち帰る。中庭ではキッチンカーでの料理がふるまわれ、食事を楽しめる。夜にはナイトミュージアムで幻想的な光や特別な空間で鑑賞や解説を愉しむことができる。はじめは刀剣を目的に来た若い方が尾張徳川家の文化財や日本美術に興味を持ち、季節ごとの継続的に展覧会やイベントに参加したくなり、メンバーシップに参加する。

— 現代と歴史への興味が融合し、誰もが「日本文化を我がもの」と感じられる美術館

文化観光の取組みの考え方

①目指す姿を描く

拠点での「来訪者の行動変容を促す狙い」の参考例：

- ふじのくに地球環境史ミュージアム（静岡県）
「百年後の静岡が豊かであるために」
来訪者が自ら何ができるかを考えるきっかけをつくること
- 地獄温泉ミュージアム（大分県）：
「温泉がもっと愛おしくなる」
展示を通じて情報提供にとどまらず、愛着を生み出すところまで昇華させること
- 佐賀県立九州陶磁文化館（佐賀県）：
「有田焼の物語に触れ、生産地へ足を運びたいくなる」
世界に広がった有田焼の歴史を体感的に伝え、生産地を訪ねたいくなる好奇心を生み出すこと

文化観光の取組みの考え方

①目指す姿を描く

拠点での「来訪者の行動変容を促す狙い」の参考例：

■ 山梨県富士山世界遺産センター（山梨県）

「富士山は人の営みの源泉となった文化遺産であることを知る」
世界遺産登録の背景となった自然・信仰・芸術が重なり合う富士山の文化的価値を
体感し、未来へ受け継ぐ意識をもつこと

■ 西表石垣国立公園 竹富島ビジターセンター 竹富島ゆがふ館（沖縄県）：

「島の暮らしや自然を思いやる旅に」
観光で来ているこの場所が、島の自然や伝統文化、人々の暮らしと密接に結びついて
いることを理解し、島のルール・マナーを守り、島的美観・環境・暮らしに配慮した
振る舞いや、守り・継ぐ滞在の視点を持ってもらうこと

文化観光の取組みの考え方

② 目指す姿へのギャップを把握する

現状を把握する

- ・ 現状の拠点や地域の来訪者の受け入れ態勢を把握する

目指す姿とのギャップを認識する

- ・ 目指す姿に対する取組みの不足点や課題を洗い出す
- ・ 不足している理由や取組めていない要因を分析する

文化観光の取組みの考え方

②目指す姿へのギャップを把握する

目指す姿とのギャップを認識する

目指す姿に対する取組みの不足点や課題を洗い出すための確認点

- 来訪者が興味を掻き立てられるような展示、分かりやすい解説が行われているか
- 地域でその文化を体験できる場所があるか。また受入れる整備ができているか
- 来訪者がその文化体験を持ち帰ることができるか
- それらを対外的に紹介しているHPがあるか。それは十分な内容か
- 来訪者が文化を愉しみながら飲食をしたり、宿泊ができる場所があるか
- インバウンド観光者向けの多言語での案内や解説は整備されているか
- 公共交通機関でストレスなくアクセスできるか
- 拠点施設においてバリアフリーやWifi、キャッシュレスなどが整備されているか

文化観光の取組みの考え方

③ギャップを埋める取組みを考える

—理想の文化観光体験に近づくために、何を変える・加えるか—

ここでは、「①目指す姿」で描いた理想の文化観光体験と、
「②現状とのギャップ」をつなぐための“具体的なアクション”を考える

「来訪者の文化観光体験をより深く、魅力的にする」ために
拠点施設はもちろん、地域全体でどんな工夫ができるかを発想する

文化観光の取組みの考え方

③ギャップを埋める取組みを考える

来訪者体験を磨く

来訪者が「もっと深く文化を感じる」ための体験のために何をするか

<伝える工夫>

- 来訪者が“文化の価値”を理解しやすい説明や展示にできないか？
- 解説文や案内をよりわかりやすくする工夫は？（例：ストーリー性・多言語の質）
- インバウンド来訪者に対して文化の価値の本質を伝えるにはどうするか？
- デジタル技術（サイネージ・映像・音声ガイド）を使って体験を広げられないか？

<楽しむ工夫>

- 季節や時間帯、空間などを活かして体験を豊かにできないか？
- 普段は入れない場所での新しい楽しみ方をつくれませんか？
- 地域で面的に広げた様々な文化体験をつくれませんか？
- 来館後も心に残る「おみやげ」や「学び」を作れないか？

文化観光の取組みの考え方

③ギャップを埋める取組みを考える

体験の場を広げる

来訪者に地域で文化を愉しんでもらうために何をするか

<地域の受入れ>

- ☐ 地元の文化を語り・案内できるようにするには？
- ☐ 地域で文化体験を行える場所をどのように整備するか？
- ☐ 文化体験ができる飲食や宿泊を含めた滞在価値をどのように高めるか？

<地域の周遊や接点の強化>

- ☐ 地域の誘客力のある観光地や施設との連携をどのようにできるか？
- ☐ 地域の産業や伝統工芸・食文化・祭りなどどう連動できるか？
- ☐ 周辺施設や商店街など、地域との回遊性を高める方法はあるか？
- ☐ 修学旅行や教育旅行や研修旅行などの学びの観光やMICEとつなげられるか？

文化観光の取組みの考え方

③ギャップを埋める取組みを考える

来訪者に知ってもらう・来てもらう

文化の価値に出会うキッカケをどのようにつくるか

- どのようなターゲットに、どのようなメッセージを伝えると価値や魅力が届くか？
- インバウンドの来訪者にわかりやすい説明（多言語・ストーリー）とは何か？
- ターゲットに対してどのような媒体でどのような発信ができるか？
- 来訪者のアクセス課題においてどのような解決策があるか？
- 単独では誘客力がなくとも地域で面的な魅力を出すことができるか？
- 文化体験を来訪者の観光動線の中でどのように位置づけるか？

文化観光の取組みの考え方

④一緒に取り組む連携事業者を考える

打ち手を共に取組む事業者を考える

自身の拠点だけで解決できない課題をどのような地域の事業者と取り組むか

- どのような事業者・組織と協働すれば取組みの効果が高まるか
- 互いの強みを活かした“Win-Win”の関係が作れるか
- 連携できそうな地域のDMOや観光協会、観光事業者がいるか
- 地域において、拠点施設や文化資源を共に盛り立てる民間事業者は見出せそうか
- 地域の文化資源の価値やストーリーを共有できている、発信している事業者がいるか
- 文化による地域の経済波及効果を文化に再投資する仕組みを共に考え、実装できるか

好循環の創出の形を描く



好循環の創出：

文化の振興を起点として、観光の振興、地域の活性化につなげ、その経済効果が文化の振興に再投資される好循環が創出されること

- ◆ 地域の住民が地域の文化を育むための多くの取組み行っている
- ◆ その取組みが魅力ある形で磨かれている
- ◆ 日常の風景や習慣、地域の街並み、飲食、宿泊、人との交流が、文化の体験価値が高まるものになっている
- ◆ 季節ごと、朝や夜の時間もそこでしかできない体験ができる
- ◆ それを来訪者がいつでも愉しむことができる状態になっている
- ◆ 来訪者は体験や活動に参加し、その先も応援したくなる
- ◆ 入館料や体験料、飲食や滞在による地域での消費、応援（会費など）や寄付を原資として地域の文化活動に再投資される循環をつくる
- ◆ こうした取り組みによって文化拠点や文化観光事業者は地域の期待に応え、
- ◆ 地域の文化活動にとって求められる存在になっていく

文化観光の取組みの考え方

このワークに取り組むことで

文化観光の計画の構想や骨組みができる

文化観光での来訪者体験を設計する

現状の課題を把握する

必要な取組みを洗い出す

取組みの体制を想定する

好循環の創出の形を描く

文化観光の取組みの考え方

参考手法：マトリクスで書き出してみる

① 文化資源の魅力アップ（価値を高める） 文化資源を深掘りする展示やストーリー化 保存修復・演出方法の工夫（体験型・演劇・ARなど）	② 理解促進（来訪者の理解と関心を深める） 解説ツアー、ガイド ワークショップ・講座・交流イベント	③ 便利さを高める（来やすく、周りにやすく） 交通アクセス案内、シャトルなど整備 休憩・多言語案内・バリアフリー対応
④ 地域と事業をつくる（文化観光の協働） 地元事業者との商品開発（お土産・飲食） 地域イベントとの同時開催連携 ユニークベニュー	あなたの拠点（地域）： 文化資源： 来訪者に伝えたい価値： 文化観光で実現したいこと：	⑤ 地域周遊の促進（地域に滞在してもらう） 地域観光施設との連携、ナイトコンテンツ、 連携ツアー、相互誘客
⑥ ファンづくり（再訪・関係人口増） 年間パスポート・会員制度 定期イベントやニュースレター配信	⑦ 外国人来訪者のおでむかえ（受入整備） 多言語整備、ガイド通訳制度、体験コンテンツ	⑧ 情報発信（知ってもらう・来てもらう） SNSやウェブの発信戦略 観光媒体への露出、パッケージツアー誘致
⑨ 再投資の仕組みづくり 事業の収益化、資金循環の仕組みづくり、事業や組織の予算増や人員増（またそのための評価設計）		